

EU Indicators

欧州経済指標コメント：10-12月期ユーロ圏GDP改定値

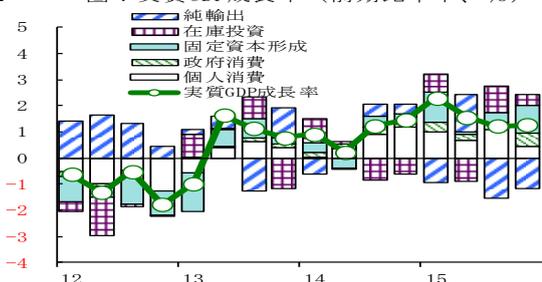
発表日：2016年3月9日(水)

～温暖な天候と難民危機に助けられた～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

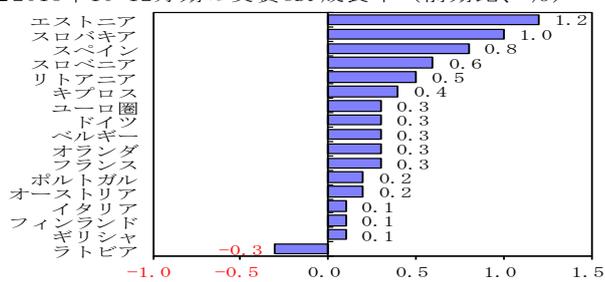
- 8日に発表された昨年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率の改定値は前期比+0.3%、同年率+1.3%と、速報段階（前期比+0.3%、同年率+1.1%）から僅かに上方修正。成長ペースは緩慢ながら、11四半期連続のプラス成長を記録。国別には、ラトビアが速報段階から下方修正された一方、ギリシャ、フィンランド、オーストリアが上方修正され、新たに加わったスロベニアが域内平均を上回った。
- 速報段階で発表されていなかった需要項目別の内訳は、輸出（7-9月期：同+0.2%→10-12月期：同+0.2%）が緩慢な伸びにとどまったことで純輸出の寄与度（同▲0.4%ポイント→同▲0.3%ポイント）が2四半期連続でマイナスとなった一方、個人消費（同+0.5%→同+0.2%）、政府消費（同+0.3%→同+0.6%）、固定資本形成（同+0.4%→同+1.3%）、在庫投資（同+0.3%ポイント→同+0.1%ポイント）と内需項目が揃って成長率を押し上げた。
- 例年に比べて温暖な天候が建設投資を押し上げた一方、冬物衣料や暖房費の抑制から個人消費の足を引っ張った。他方、財政緊縮ペースの緩和や難民危機対応を反映して政府消費の拡大ペースが加速。これまでのところ、世界的な景気減速を背景とした外需の低迷を堅調な内需が相殺している。天候要因による押し上げが剥落するものの、世界景気の先行き不安が後退しており、今後は内外需バランスの取れた成長軌道に復帰することが予想される。
- なお、ユーロ圏のGDP速報値はこれまで当該四半期の終了から約45日後に公表されていたが、次回1-3月期の発表からは、ユーロ圏とEU全体の計数のみが約30日後に公表日程が前倒しされる（1-3月期の速報値は4月29日に発表）。国別の速報計数はこれまで通り約45日後に発表される。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2015年10-12月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
14/1-3月期	2.0	0.9	(1.5)	0.1	0.8	1.8	(1.0)	▲ 0.6	3.1	5.0
14/4-6月期	0.7	0.2	(0.3)	0.7	0.8	▲ 1.8	(0.1)	▲ 0.0	4.1	4.6
14/7-9月期	2.2	1.2	(0.8)	1.7	1.2	2.1	(▲ 0.8)	0.5	6.6	6.0
14/10-12月期	3.1	1.4	(1.1)	2.2	0.6	1.9	(▲ 0.6)	0.4	5.1	4.7
15/1-3月期	3.7	2.3	(3.2)	1.8	1.8	5.9	(0.7)	▲ 0.9	5.7	8.7
15/4-6月期	2.8	1.6	(0.1)	1.2	1.1	0.4	(▲ 0.9)	1.4	6.8	3.9
15/7-9月期	2.4	1.2	(2.7)	2.0	1.3	1.7	(1.0)	▲ 1.5	0.9	4.7
15/10-12月期	2.7	1.3	(2.4)	0.9	2.2	5.4	(0.4)	▲ 1.2	0.9	3.8

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。